

ふるさとの魅力,再発見！に向けて

高校生アンケート

集計結果

飯田市教育委員会

調査の概要

1 調査の目的

17年度より地育力向上連携システム構築を進める中で、具体的な施策の策定、実現にあたりより確実に現状を把握し、今後の参考にしていくことが必要だと考えられた。そこで地域における教育としては最終段階といえる高校生の生活、家族、友人、自分に対する意識、進路、そして特にふるさとに対する思いを調査すべく、アンケートを実施した。

2 調査内容

調査内容は大きく、以下のように構成されている。内容により、選択肢から回答を選択してもらうものと、記述による回答を求めるものがある。

属性

家族関係（家族構成・家族との関係・満足度）

友人関係（交流方法・満足度）

学校（満足度）

地域社会（隣人との関係・地域行事への参加度）

ふるさと（居住地・成育地・ふるさとに対する思い）

進路・職業（希望職種・地元での就職、進学希望・将来的な帰郷希望）

自己意識（自己満足度・体験・夢）

地域への提案

3 調査の実施

調査期間 平成18年6月

調査対象 飯田下伊那地域内高等学校全9校

協力校: 飯田高校 飯田風越高校 飯田長姫高校 飯田工業高校

飯田女子高校 下伊那農業高校 松川高校 阿智高校 阿南高校

1, 2, 3各学年より任意に抽出した1クラス(1校あたり3クラス)の生徒全員

回収数 1029部

	男性	女性	不明	合計
阿智高校	73	35		108
阿南高校	22	58		80
下伊那農業高校	40	77	1	118
飯田工業高校	110	4	2	116
飯田女子高校		149		149
松川高校	58	40	2	100
長姫高校	36	79	1	116
飯田高校	65	57		122
風越高校	31	89		120
男女別計	435	588	6	1029

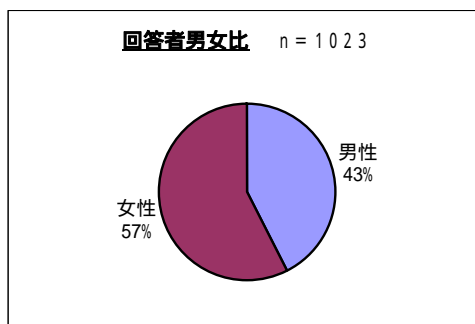
調査方法 各高校を通じて生徒へのアンケート配布、記入、回収を依頼

4 調査結果

属性

Q1 性別をお答えください。

	人数
男性	435
女性	588
回答数	1023



考察 では男女の属性を訊ねた。回答者の男女比は男性43%女性57%と、女性の方が多くなっている。

家族との関係

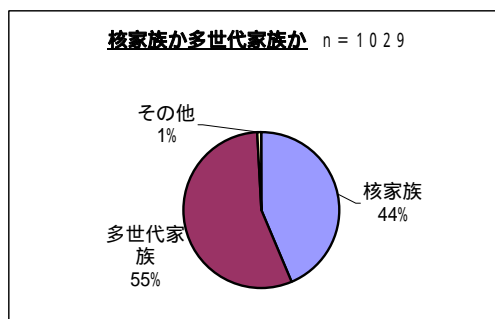
Q2 あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。

	人数
父親	788
母親	824
兄	272
姉	245
弟	320
妹	356
祖父	316
祖母	430
曾祖父	8
曾祖母	23
その他	27

その他：下宿 ペット 親類 養護施設 等

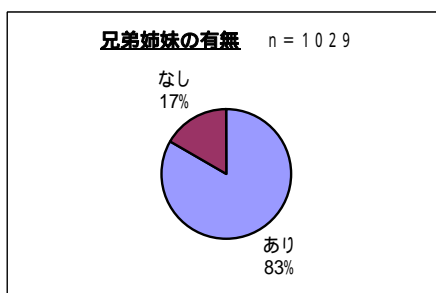
核家族と多世代家族の割合

	人数
核家族	449
多世代家族	570
その他	10
回答数	1029



兄弟姉妹の有無

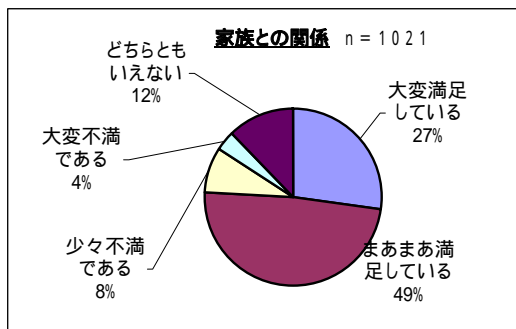
	人数
あり	858
なし	171
回答数	1029



考察 単世代家族（核家族）と多世代家族の割合はそれぞれ44%対55%、多世代家族の割合の方が多い。

Q3 あなたは自分と家族との関係をどう感じていますか。

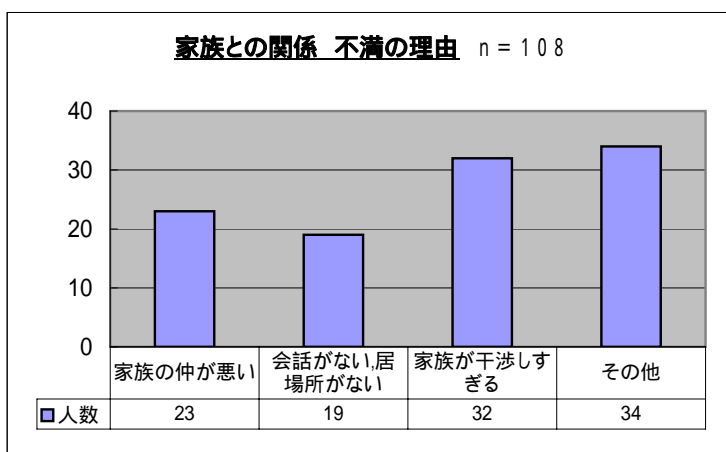
	人数
大変満足している	279
まあまあ満足している	495
少々不満である	84
大変不満である	39
どちらともいえない	124
回答数	1021



Q4 少々不満である、大変不満である、と答えた方にお聞きします。

具体的にどんな不満がありますか、お書きください。

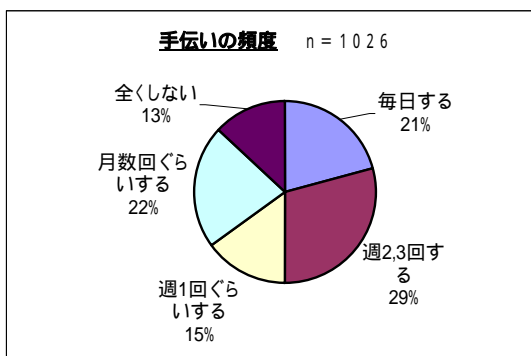
(自由記述による答えを内容別に分類)



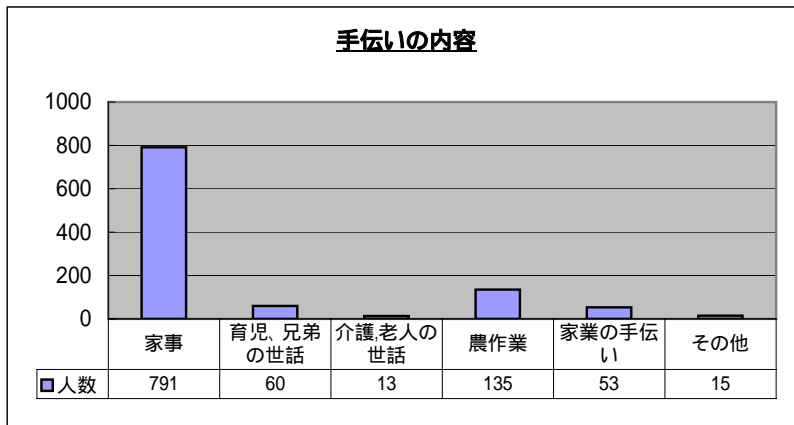
その他: いろいろ すべて ノーコメント 等

Q5 あなたは日ごろどのくらい家の手伝いをしますか。

	人数
毎日する	213
週2,3回する	300
週1回くらいする	153
月数回くらいする	227
全くしない	133
回答数	1026



Q6 手伝いをする、と答えた方にお聞きします。どんな手伝いをしますか。
(複数回答)



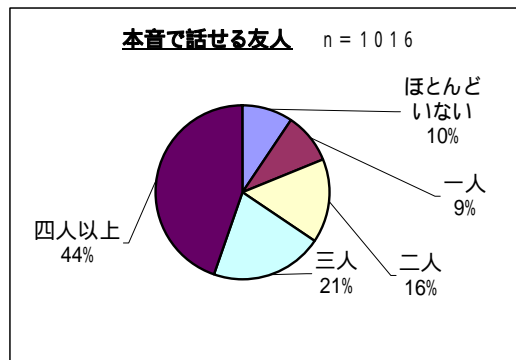
その他：犬の散歩、世話 内職 弁当作り お風呂 荷物運び 指示されたこと 等

考察 では、家族形態、家族との関わりを訊ねた。家族との関係には、大変満足、まあまあ満足を含めて76%。それに対し、少々不満、大変不満、どちらともいえない、合わせて24%という結果が出た。家族との関係に実に4分の1が満足していない状況は、人間関係の希薄さを裏付ける結果となっている。
 手伝いについては、週1回程度までとするものが約50%となっており、あまり関わっていない、或いは、役割がない、という状況である。
 不満の内容に関しては、家族の過干渉と無関心の両極に分かれている印象を受ける。

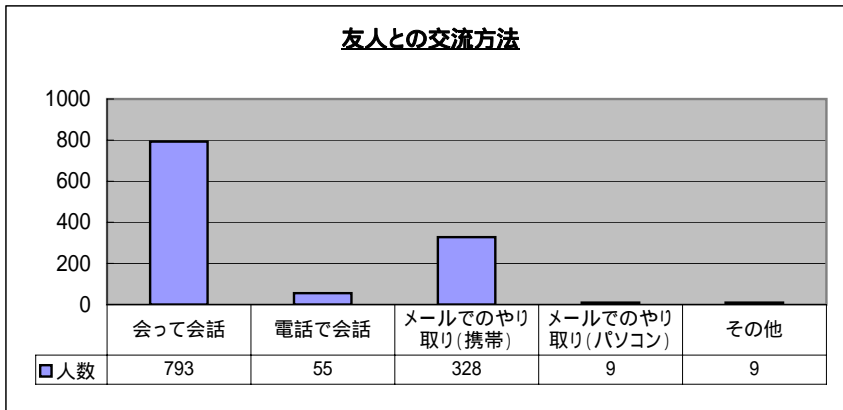
友人との関係

Q7 本音で話のできる友人は何人ぐらいいますか。

	人数
ほとんどいない	97
一人	95
二人	158
三人	211
四人以上	455
回答数	1016

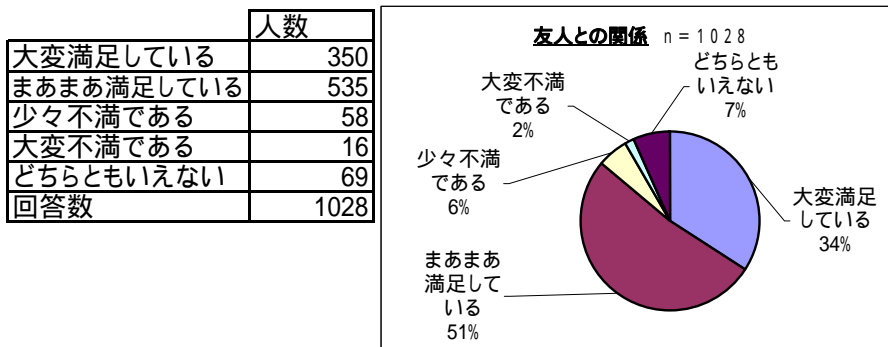


Q8 友人との交流方法で主なものはどれですか。
(複数回答多し)



その他: どれもある 手紙 パソコンの掲示板 チャット

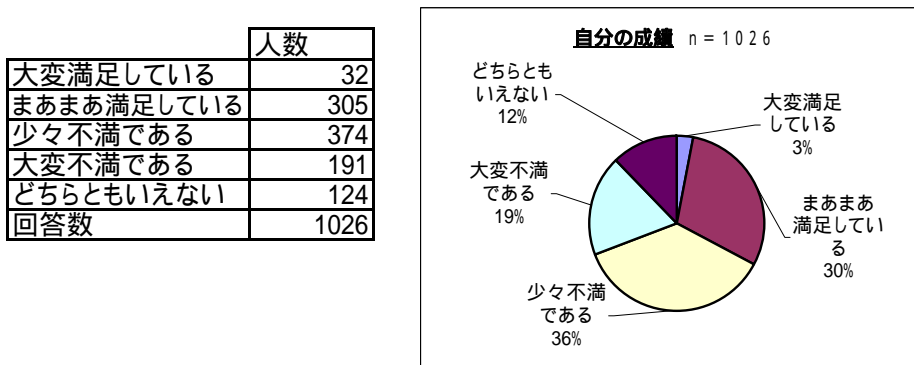
Q9 あなたは友人との関係に満足していますか。



考察 では、友人との関係とその交流方法を訊ねた。本音で話せる友人の数は、4人以上との答えが40%を超えており、多くの友人と交わる生活を送っているといえる。一方で、10%の生徒が、本音で話せる友人はいない、と答えている点には留意すべきである。

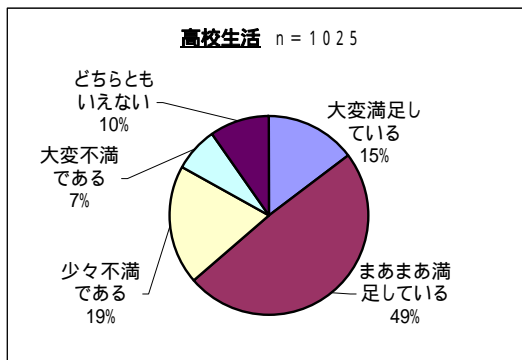
学校生活

Q10 あなたは自分の今の成績に満足していますか。



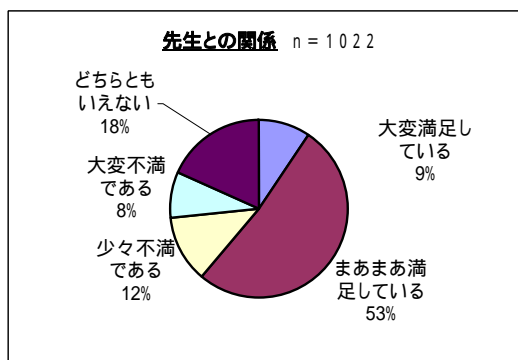
Q11 あなたは今の高校生活に満足していますか。

	人数
大変満足している	151
まあまあ満足している	500
少々不満である	199
大変不満である	74
どちらともいえない	101
回答数	1025



Q12 あなたは自分と先生との関係に満足していますか。

	人数
大変満足している	96
まあまあ満足している	528
少々不満である	126
大変不満である	85
どちらともいえない	187
回答数	1022

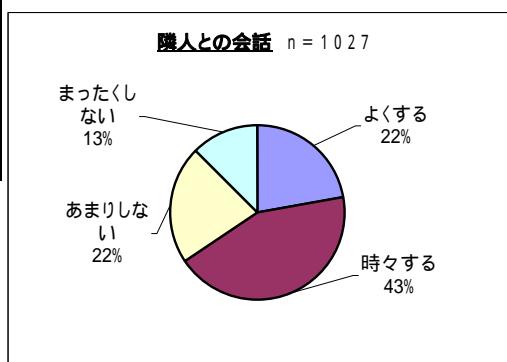


考察 では学校生活に関して訊ねた。自分の成績に関しては、不満を持つ生徒が多い。不満の中身としては、自分の希望する進路と比較して不満である、或いは、全体における位置から考えて不満である、とする2つの意味を持っていると考えられる。学校生活への満足度は、約3分の2が満足としており、比較的高い印象を受ける。

地域社会との関わり

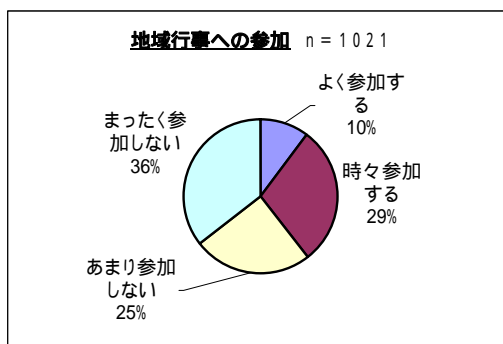
Q13 あなたは近所の住人と、よく会話をしますか(あいさつなども含めます)。

	人数
よくする	227
時々する	447
あまりしない	224
まったくしない	129
回答数	1027

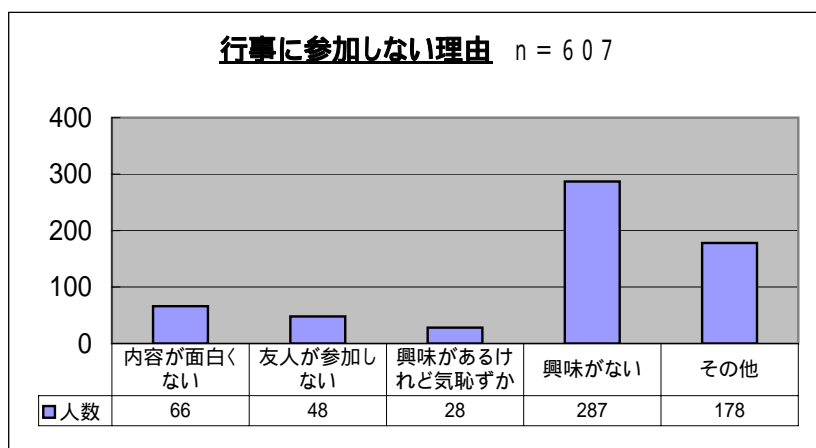


Q14 あなたは高校生になってから地域の行事(祭り、文化祭、運動会等)に参加をしていますか。

	人数
よく参加する	106
時々参加する	298
あまり参加しない	253
まったく参加しない	364
回答数	1021



Q15 あまり参加しない、まったく参加しない、と答えた方にお聞きます。それはなぜですか。

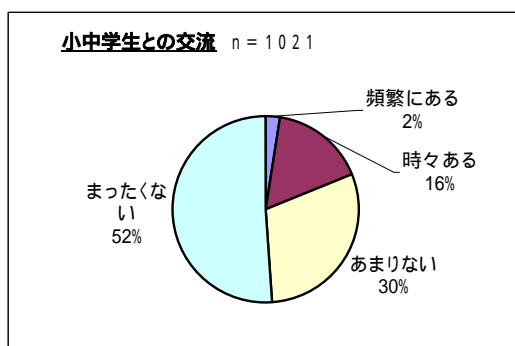


その他 の記述のうち、多かった意見

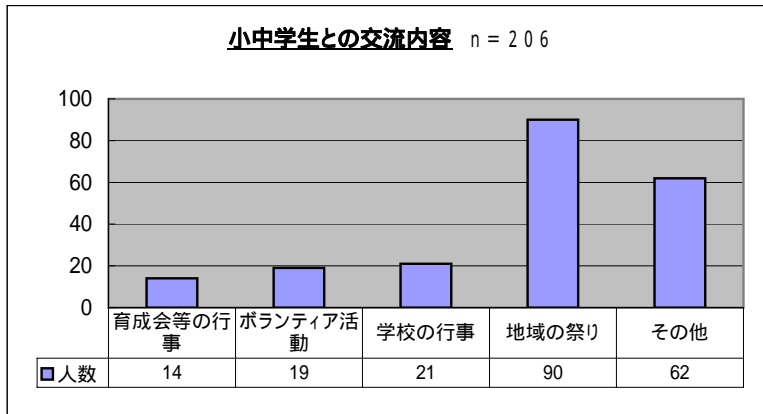
	人数
時間がない、忙しい	66
行事がない、あることを知らない	47
部活がある	33

Q16 あなたの住む地域の小学生や中学生と交流の機会がありますか。

	人数
頻繁にある	25
時々ある	167
あまりない	306
まったくない	523
回答数	1021



Q17 頻繁にある、時々ある、と答えた方にお聞きます。具体的にどんな交流を行っていますか。



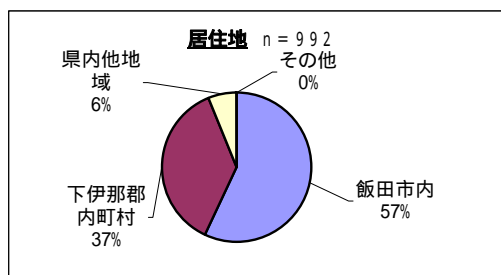
その他 社会体育 部活で 兄弟姉妹の友人、近所の子 等

考察 では地域社会との関わりを調査した。隣人との会話は、よくする、時々する、合わせて65%がする、と答えているが、一方、あまりしない、まったくしない、合わせて35%いる。あいさつがあまりしっかりできていない生徒も多い、と考えられる。地域行事への参加に関しては、合わせて約40%がする、という答えであったが、この数字は地区公民館主事の実感と乖離している。設問に(祭り)を含めたところからかなり広域的な祭りへの参加も地域の行事と捉えて答えた可能性があるが、あまり参加しない、まったく参加しない、合わせて約60%という結果は、高校生の地域社会との関わり少なさをうかがわせる。行事に参加しない理由として、行事があることを知らない、と答えている生徒が多い点に関しては今後、様々な対応策が考えられよう。一方で、多くの高校生が部活で忙しいのも事実。Q32で多くの生徒が感動した出来事に部活での活躍を挙げていることから、部活の重要性も考慮すべきである。小中学生との交流に関しては、あまりない、まったくないを合わせて82%である。異年齢集団の関係の希薄さがうかがえる結果である。

ふるさと

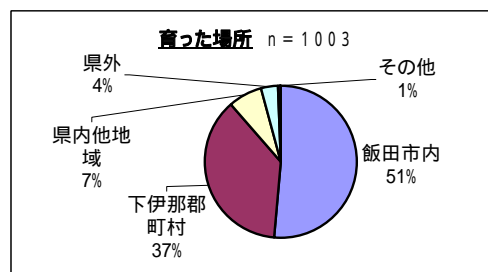
Q18 あなたが今住んでいる場所はどこですか。

	人数
飯田市内	564
下伊那郡内町村	368
県内他地域	60
その他	0
	992

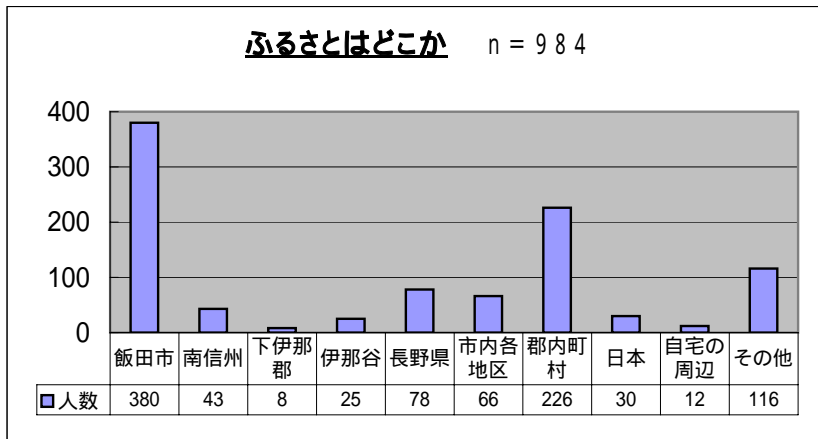


Q19 あなたが主に育った場所はどこですか。

	人数
飯田市内	516
下伊那郡町村	372
県内他地域	72
県外	37
その他	6
	1003



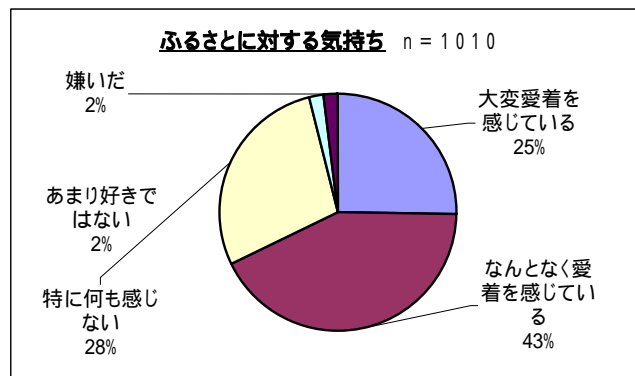
Q20 あなたにとって、(今の時点で)自分の「ふるさと」といえる場所はどこですか。具体的にお書きください。



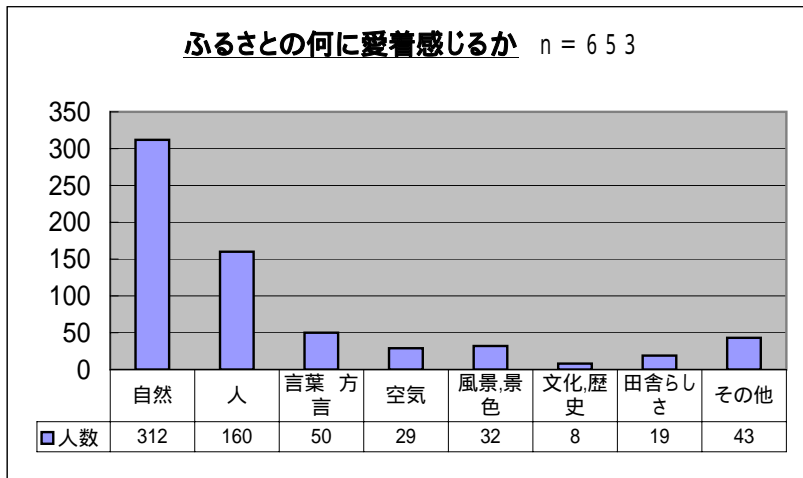
その他 他県 天竜川 天竜峡 世界 おばあちゃんち 地球 外国
自分が生まれたところ 特になし 等

Q21 あなたはそのふるさとに対してどんな気持ちを持っていますか。

	人数
大変愛着を感じている	254
なんとなく愛着を感じている	430
特に何も感じない	286
あまり好きではない	19
嫌いだ	21
回答数	1010

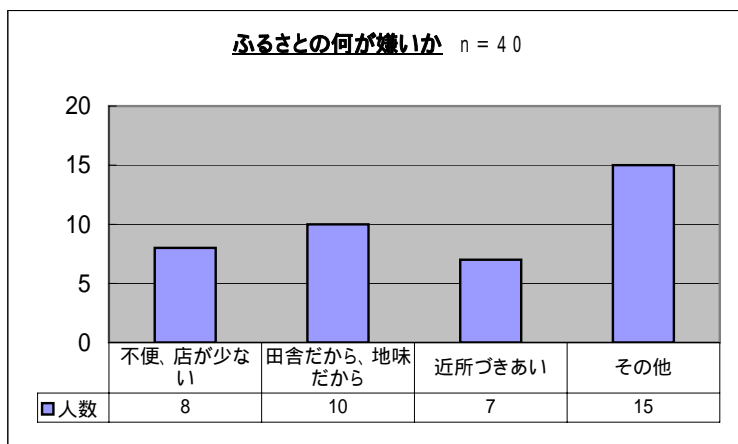


Q22 大変愛着を感じている、なんとなく愛着を感じている、と答えた方にお聞きます。特にふるさとのどんなものや事柄に愛着を感じていますか。
(自由記述の内容を分類)



その他 居心地がいい りんご並木 なんとなく 飯田線 獅子舞
都会過ぎず田舎過ぎず 友人がいるから 等

Q23 あまり好きではない、嫌いだ、と答えた方にお聞きます。どんな点が好きではない、又は嫌いですか、具体的にお書きください。
(自由記述の内容を分類)



その他 革新がない 保守ばかりで発展が見られない
市役所が融通が利かない 学歴で決め付ける
車やバイクがうるさい 文明が中途半端に進んでいる 等

考察

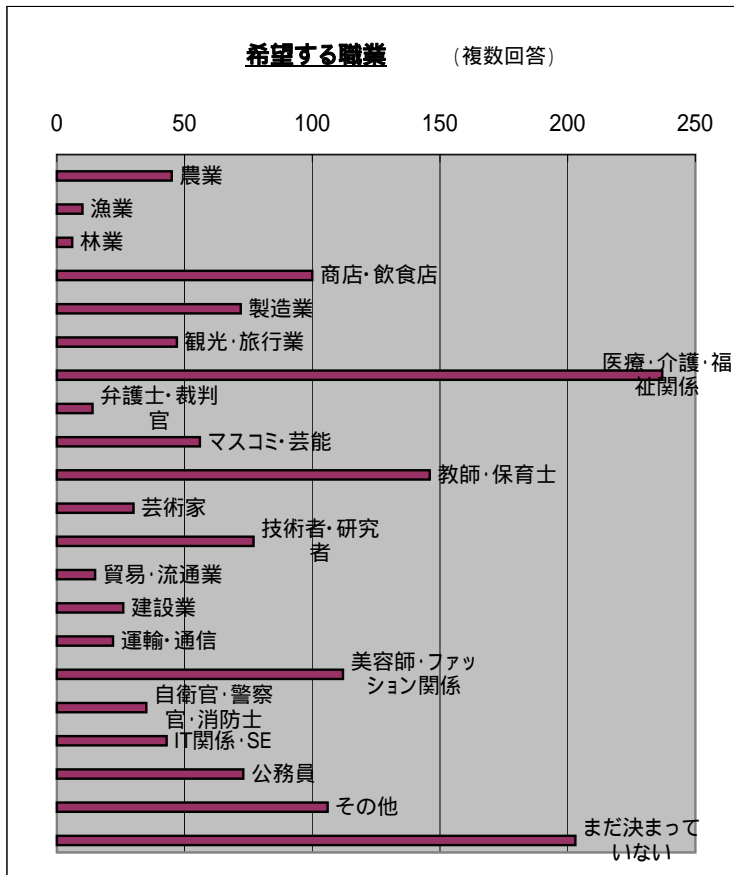
では、高校生のふるさとに対する意識を調査した。
考察の前提として、現在の居住地や、主な成育地をQ18及びQ19で訊ねたが、ともに飯田市内が過半数を超え、残り約4割が郡内町村、居住地では6%が郡外、成育地では11%が郡外、という結果であった。
Q20では、自分のイメージする「ふるさと」の地を記述してもらったが、飯田市と答えた生徒が最も多かった。次に多いのが、郡内町村名を答えたもので、多くの生徒が、市町村単位の範囲を「ふるさと」と捉えていると言えよう。
ふるさとへの愛着度を訊ねているQ21では、大変愛着を感じる、なんとなく愛着を

感じる、あわせて約7割が愛着を感じている、という結果が出た。意外と多くの高校生がふるさとを気に入っているという印象を受ける一方で、“特に何も感じない”高校生が3割も存在することも事実である。

愛着を感じる内容を自由記述で書いてもらうと、自然と人に関することが最も多い。文化、歴史については、極めて少数にとどまっており、地域の文化、人形劇などを取り入れながら、学校教育を行ってきた経緯を踏まえると、“ふるさと教育”における地域文化と歴史の意味と内容が問われている。

進路・帰郷希望

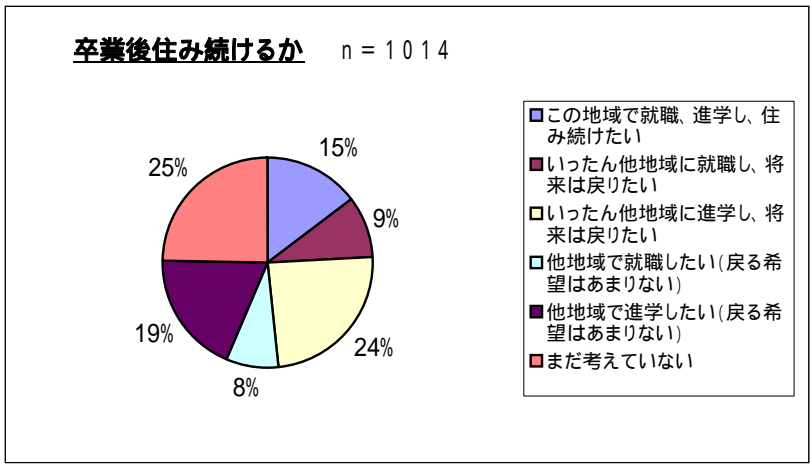
Q24 あなたは将来どんな職業に就きたいと考えていますか。(3つまで)



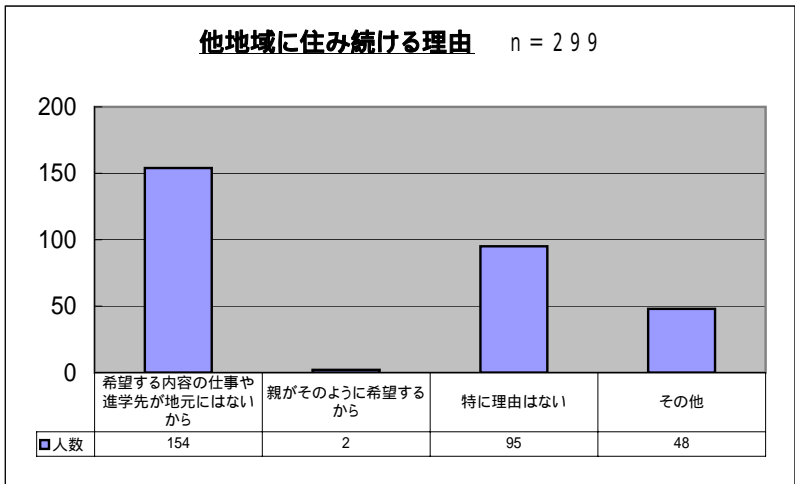
その他 動物関係 スポーツ 栄養士 調理師 漫画家 スポーツ選手 等

Q25 あなたは高校卒業後、この地域(飯田下伊那)に住み続けたいと考えていますか。

	人数
この地域で就職、進学し、住み続けたい	149
いったん他地域に就職し、将来は戻りたい	95
いったん他地域に進学し、将来は戻りたい	247
他地域で就職したい(戻る希望はあまりない)	82
他地域で進学したい(戻る希望はあまりない)	191
まだ考えていない	250
回答数	1014



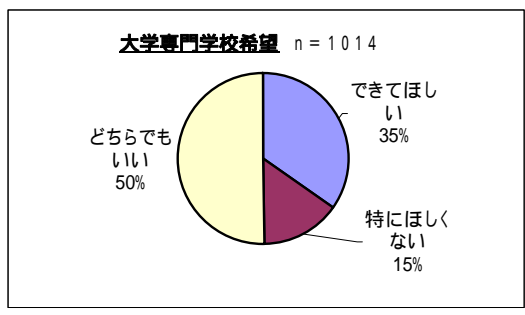
Q26 他地域で就職したい(戻る希望はあまりない)、他地域で進学したい(戻る希望はあまりない)と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。



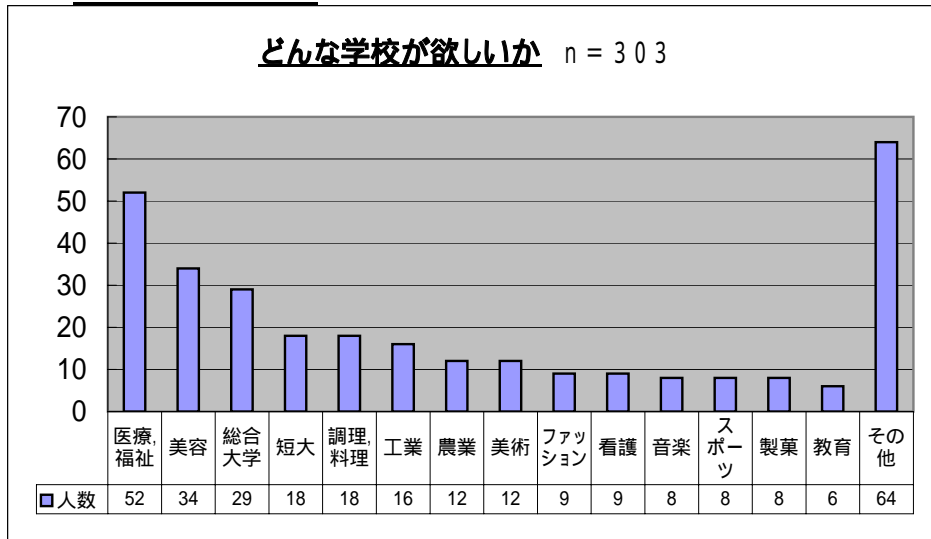
その他 外を見たい 都会が好き 親から自立したい等

Q27 今、飯田下伊那地域には短大と専門学校が各1校しかありませんが、他にも大学や専門学校ができれば良いと思いますか。

	人数
できてほしい	353
特にほしくない	151
どちらでもいい	510
回答数	1014



Q28 できてほしい、と答えた方にお聞きます。どんな専門学校や大学ができればよいと思いますか。



その他 特にない 何でもいい 地域の特色を生かした科目がある学校 等

考察

では進路や帰郷の希望、大学等の要望について訊ねている。将来の希望職種は、医療、介護、福祉関係が圧倒的に多い。この地域の高齢化等福祉の需要を考えると、その需要をよく考慮した結果とも捉えられるが、一方、2番目、3番目に多い教師・保育士や、美容師等も合わせ、地元での就職先は限定されている(と思われる)中での消極的な選択といえるか、意見の分かれるところであろう。

医療、福祉、サービス関連以外には、製造業、技術者、研究者が多い。一方、農業、林業など、かつて地域の基幹産業であった1次産業への希望は少数にとどまっております。今後の地域の産業構造のバランスを考えた場合、課題となりそうな結果である。

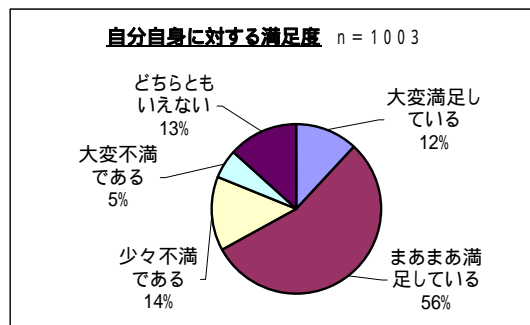
卒業後の居住地の希望を訊ねたQ25では、15%がこの地域に住み続けたい、33%がいったん地域外に出るが戻りたい、27%が戻る希望なし、そして25%が未決定という答えであった。希望通りにいけば、約5割が、いずれはこの地に住むということになるが、現実には約4割(地育力向上連携システム中間報告:推計)の定着度である。問題意識をもち、希望にこたえていく必要がある。

また戻る希望がない約3割の生徒も、その理由の多くは、希望する仕事や進学先の不足をあげている。この点をどう捉え解決していくか、対策が必要であろう。大学等教育機関の設置希望は35%と低い。多くの生徒が高等教育は域外で受けることを前提として将来を考えているかと思われる。設置を希望する生徒にその内容を聞くと、希望職種に比例するように、医療・福祉、美容等が多くなっている。

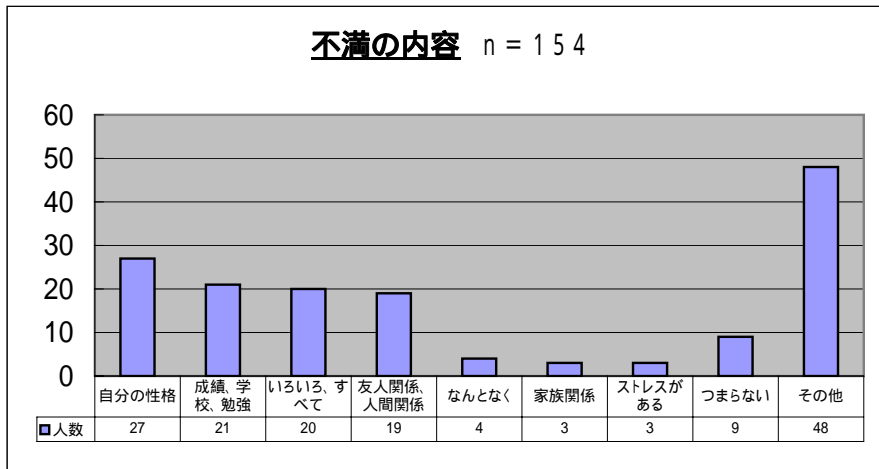
自己意識

Q29 あなたは今、家族関係、友人関係、学校生活など、すべてをトータルして、自分自身に満足していますか。

	人数
大変満足している	121
まあまあ満足している	550
少々不満である	143
大変不満である	54
どちらともいえない	135
回答数	1003



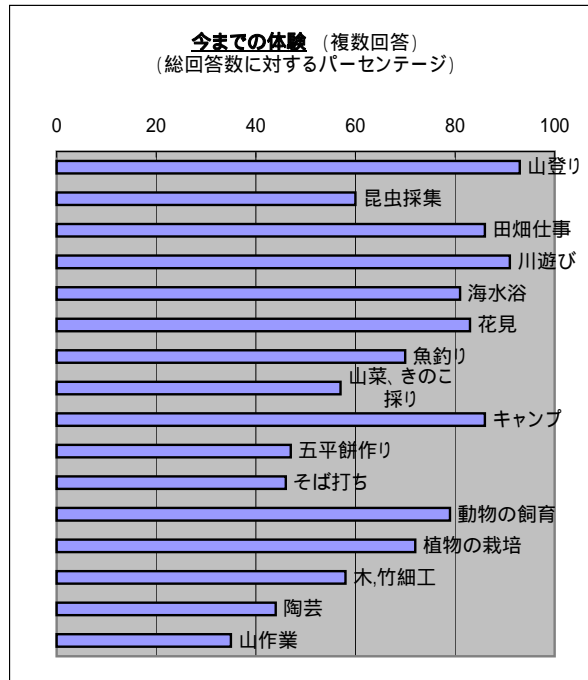
Q30 少々不満である、大変不満である、と答えた方にお聞きします。
どんな点が不満ですか、具体的にお答えください。
 (自由記述の内容を分類)



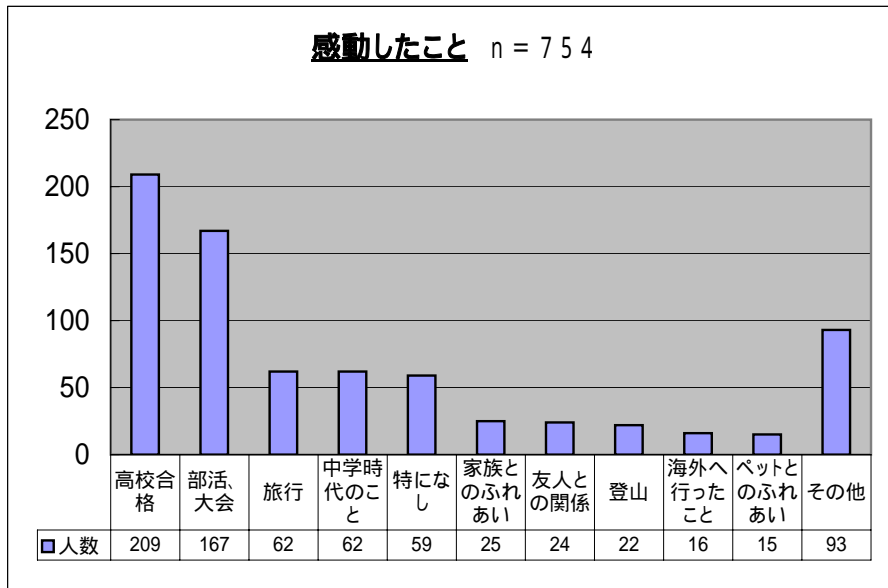
その他 部活 言えない 好きなことをやる環境がない 自立できていない等

Q31 あなたは、今までにどんな体験をしたことがありますか。
 (複数回答)

	パーセンテージ	回答数
山登り	93	959
昆虫採集	60	614
田畑仕事	86	911
川遊び	91	941
海水浴	81	830
花見	83	858
魚釣り	70	716
山菜、きのこ採り	57	587
キャンプ	86	885
五平餅作り	47	486
そば打ち	46	474
動物の飼育	79	809
植物の栽培	72	744
木、竹細工	58	597
陶芸	44	448
山作業	35	364



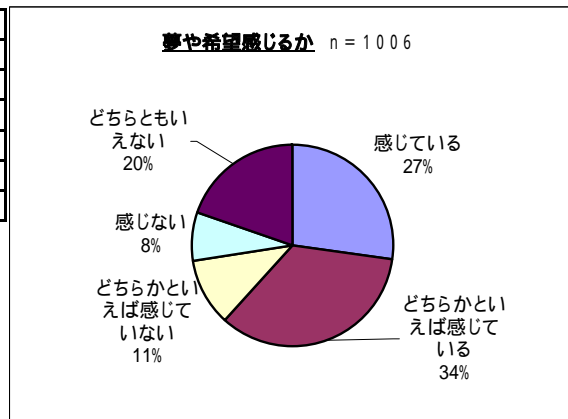
Q32 あなたがいままで生きてきた中で、大きく心を打たれた体験はどんなことですか。具体的にお答えください。 (自由記述の内容を分類)



その他 映画 音楽(ライブ・コンサート) 読書 肉親の死 たくさんある 文化祭 等

Q33 あなたは自分の将来に夢や希望を感じていますか。

	人数
感じている	275
どちらかといえば感じている	344
どちらかといえば感じていない	110
感じない	79
どちらともいえない	198
回答数	1006



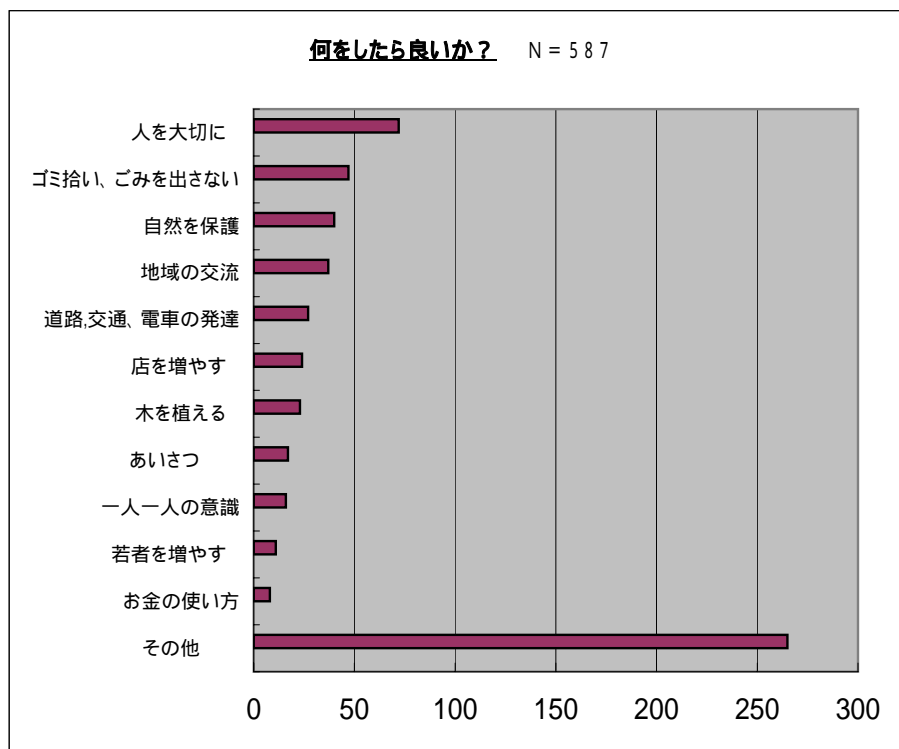
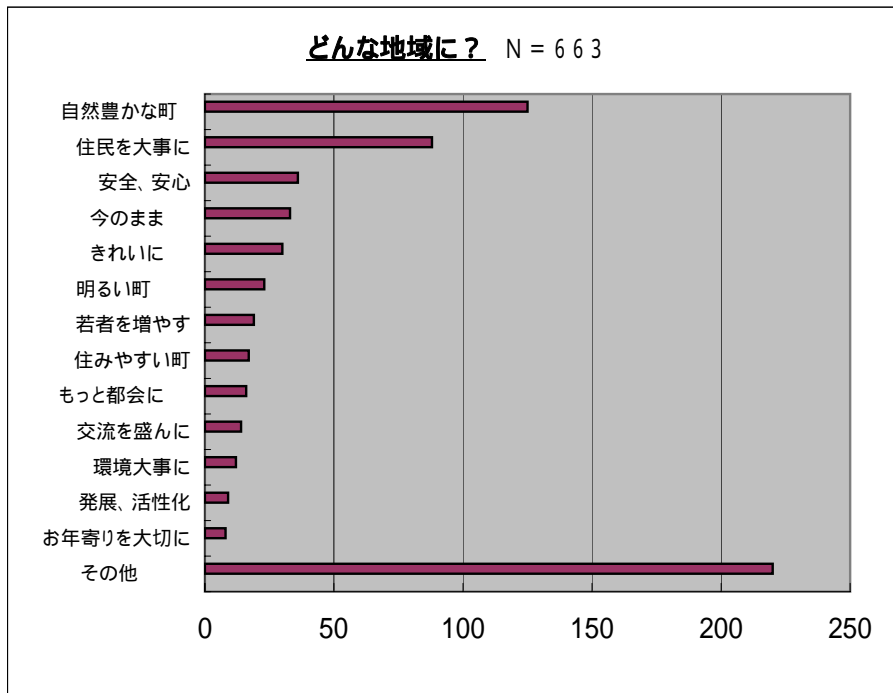
考察 では、自分に対する意識やいままでの体験、将来への希望感を訊ねている。自分に対しては大変満足、まあまあ満足合わせて約7割が満足と答えている。今までの体験は主に地元ならではの自然体験を中心に選択肢を設けたが、かなり多くの高校生が地域体験をしている印象を受ける。しかし、登山や海水浴、キャンプなどは学校行事としての体験を答えた可能性が高く、果たして自主的に体験したかどうかは更なる考察が必要といえる。

Q32で、心を打たれた体験を訊ねたが、半数近くが高校合格と部活を挙げた。地元ならではの、とはいえないかもしれないが、目標達成の喜びが成長過程では大変重要であることは事実である。

自分の将来に夢を感じている生徒は、感じている、どちらかといえば感じている、を合わせ、6割にのぼる。一方で、15～18歳時において、既に将来に夢を感じない高校生が約4割に及ぶことは、大きな問題と捉えるべきであろう。

地域への提案

Q34 もしあなたが、市長、町長、村長或いは知事だとしたら、南信州をどんな地域にしたいですか、そのために何をしたら良いと思いますか。
(自由記述の内容をキーワードで分類)

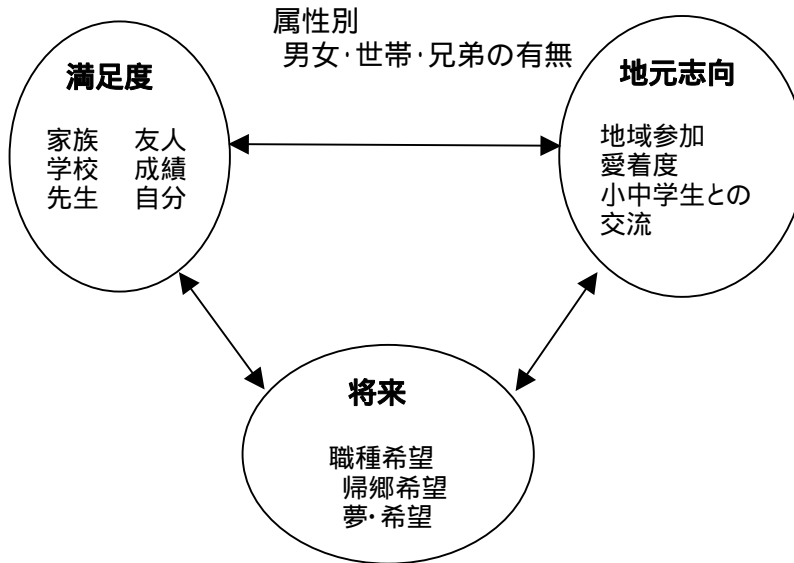


考察

Q34では地域への提案を自由に書いてもらった。
キーワードによる分類で、限界はあるが、自然や人、つまり、今現在自分が愛着を感じている地域の良さをより大切に守ってほしい、という傾向がつかえる。

高校生アンケート 分析

クロス分析の枠組み



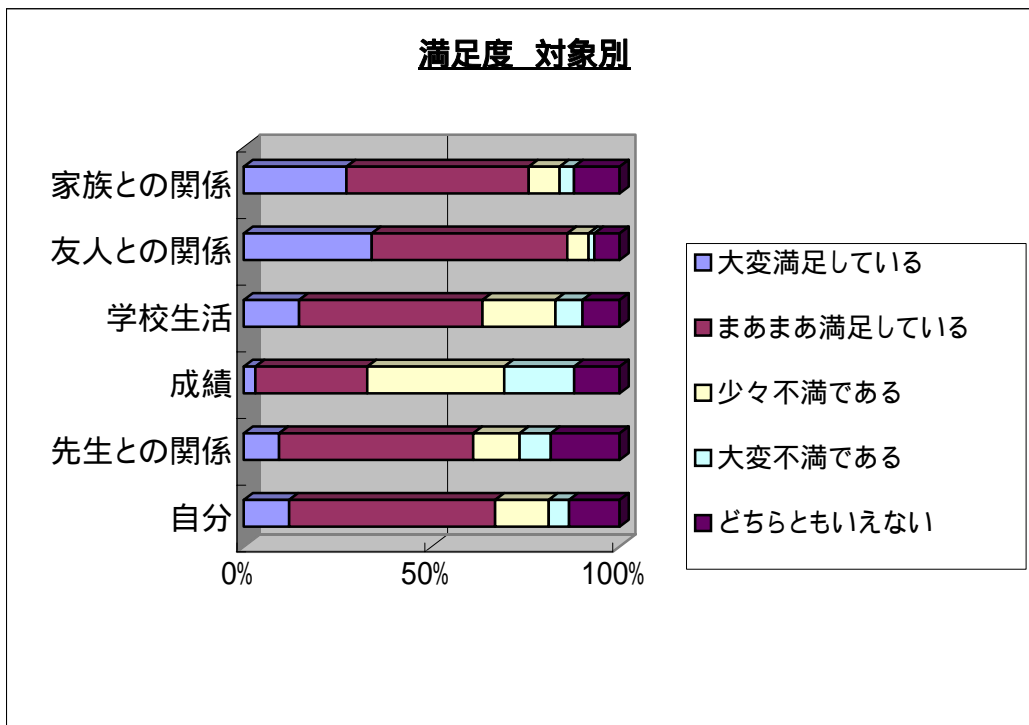
設問別内容

Q1	全	男女別
Q2	全	家族構成
Q3	全	家族との関係 満足度
Q4		不満の理由 (記述)
Q5	全	手伝いの頻度
Q6		手伝いの種類 (記述あり)
Q7	全	友人の数
Q8	全	友人との交流方法 (記述あり)
Q9	全	友人との関係 満足度
Q10	全	自分の成績 満足度
Q11	全	高校生活 満足度
Q12	全	先生との関係 満足度
Q13	全	隣人との会話の頻度
Q14	全	地域行事への参加頻度
Q15		不参加の理由 (記述あり)
Q16	全	小中学生との交流 頻度
Q17		小中学生との交流 内容 (記述あり)
Q18	全	現在の居住地
Q19	全	育った場所
Q20	全	「ふるさと」とはどこか (記述)
Q21	全	ふるさとへの愛着度
Q22		愛着の理由 (記述)
Q23		嫌いな理由 (記述)
Q24	全	将来の職業希望
Q25	全	卒業後の希望居住地
Q26		帰郷しない理由 (記述あり)
Q27	全	地域に大学が欲しいか
Q28		どんな大学が欲しいか (記述)
Q29	全	自分自身に対する満足度
Q30		不満の理由 (記述)
Q31	全	体験の種類

Q32	全	心打たれた体験（記述）
Q33	全	将来に夢感じるか
Q34	全	地域への提案（記述）
全 = 全員に聞いている設問		

1 満足度 対象別

	家族との関係	友人との関係	学校生活	成績	先生との関係	自分
大変満足している	279	350	151	32	96	121
まあまあ満足している	495	535	500	305	528	550
少々不満である	84	58	199	374	126	143
大変不満である	39	16	74	191	85	54
どちらともいえない	124	69	101	124	187	135

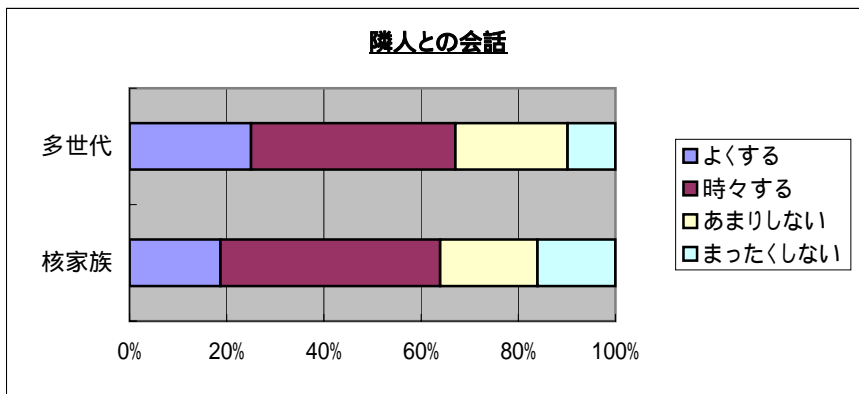


考察 満足度を対象別にまとめた。成績以外の満足は6割を超える。特に友人との関係に対する満足度は高い。

2 家族形態別に見た調査結果

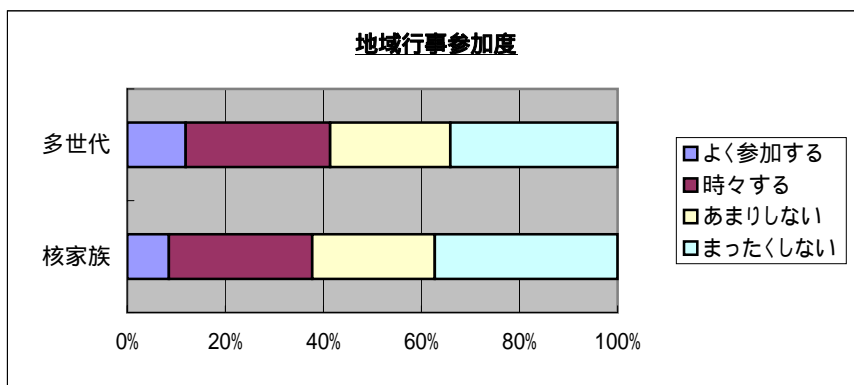
隣人との会話の頻度

	核家族	多世代
よくする	84	142
時々する	203	239
あまりしない	90	131
まったくしない	72	56



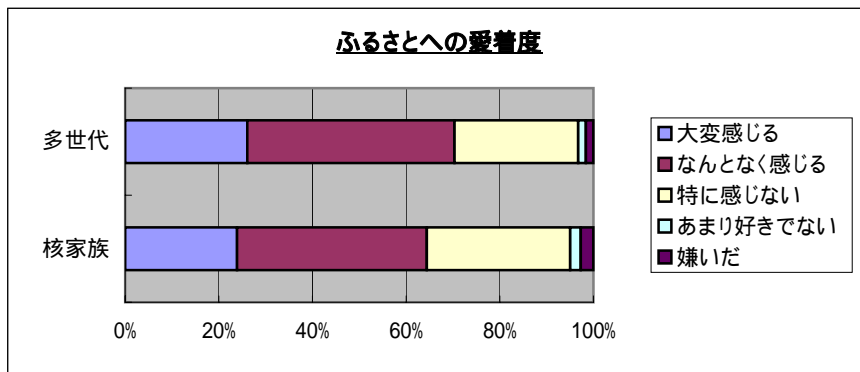
地域行事への参加度

	核家族	多世代
よく参加する	38	67
時々する	131	166
あまりしない	112	138
まったくしない	167	192



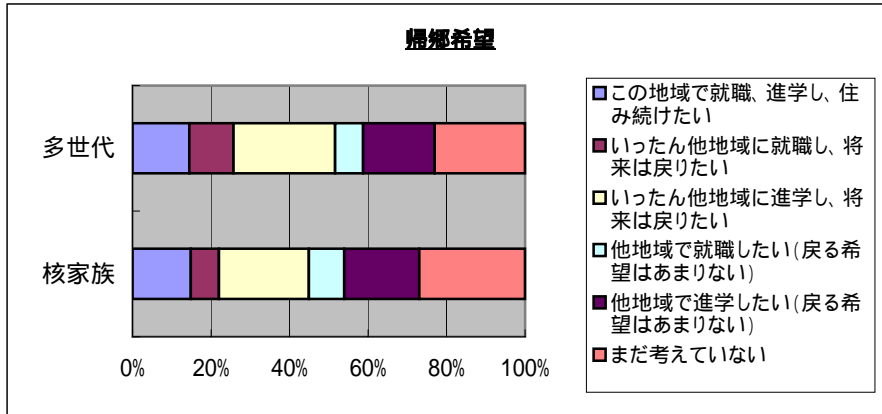
ふるさとへの愛着度

	核家族	多世代
大変感じる	106	145
なんとなく感じる	180	246
特に感じない	136	147
あまり好きでない	10	9
嫌いだ	12	9



帰郷希望

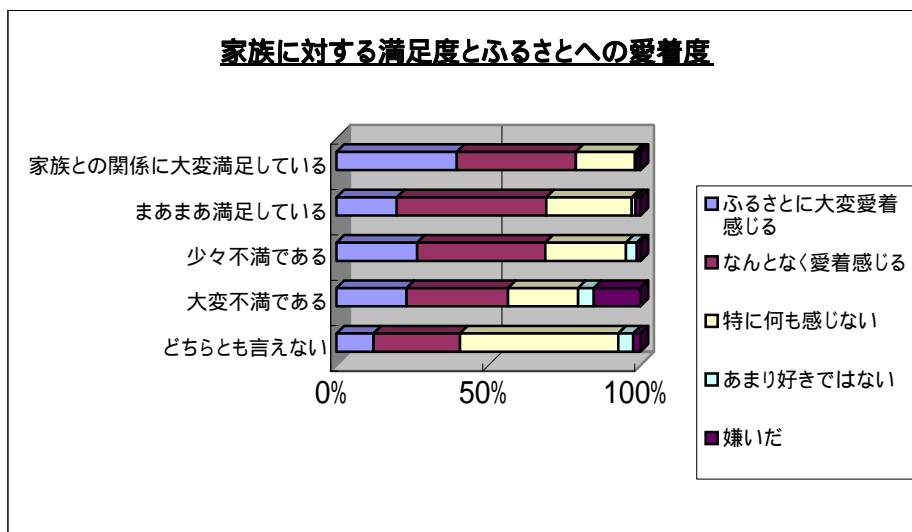
	核家族	多世代
この地域で就職、進学し、住み続けたい	66	81
いったん他地域に就職し、将来は戻りたい	32	63
いったん他地域に進学し、将来は戻りたい	102	145
他地域で就職したい(戻る希望はあまりない)	40	40
他地域で進学したい(戻る希望はあまりない)	85	102
まだ考えていない	120	129



考察 核家族か多世代家族かの形態別で、4項目にわたる比較を行った。それぞれ少しずつではあるが家族形態別の違いが見られる。隣人との会話、地域行事への参加頻度、ふるさとへの愛着や帰郷希望はそれぞれ多世代家族の方が若干高い、といった傾向が見られる。

3 家族に対する満足度とふるさとへの愛着度の関係

	ふるさとに大変愛着を感じる	なんとなく愛着を感じる	特に何も感じない	あまり好きではない	嫌いだ
家族との関係に大変満足している	108	107	53	2	3
まあまあ満足している	96	238	136	6	8
少々不満である	22	35	22	3	1
大変不満である	9	13	9	2	6
どちらとも言えない	15	35	64	6	3



考察 家族に対する満足度の5種(大変満足、まあまあ満足、少々満足、大変不満

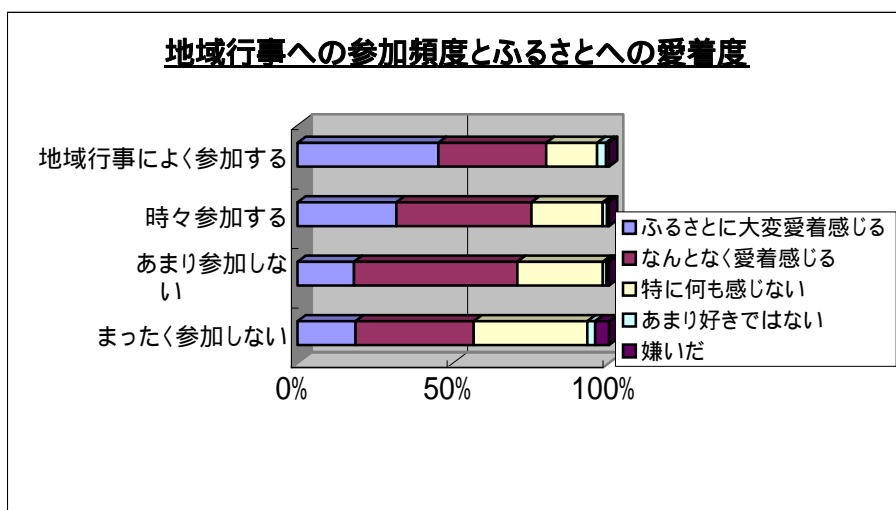
どちらともいえない)の答えをそれぞれ100%の母数とし、そのうち、ふるさとへの愛着の度合いをそれぞれどう答えているかパーセンテージで割り振った。比較基準を分かりやすくするため、満足度はその数の大小に関わらず、100%としてある。

全体的な傾向として、家族との関係に満足している生徒は、ふるさとも愛着を感じている、といえそうである。

一方、興味深いのは、家族との関係の満足度で“どちらとも言えない”と答えた生徒の多くがふるさとに対しても、“特に何も感じない”と答えている点である。

4 地域行事への参加頻度とふるさとへの愛着度の関係

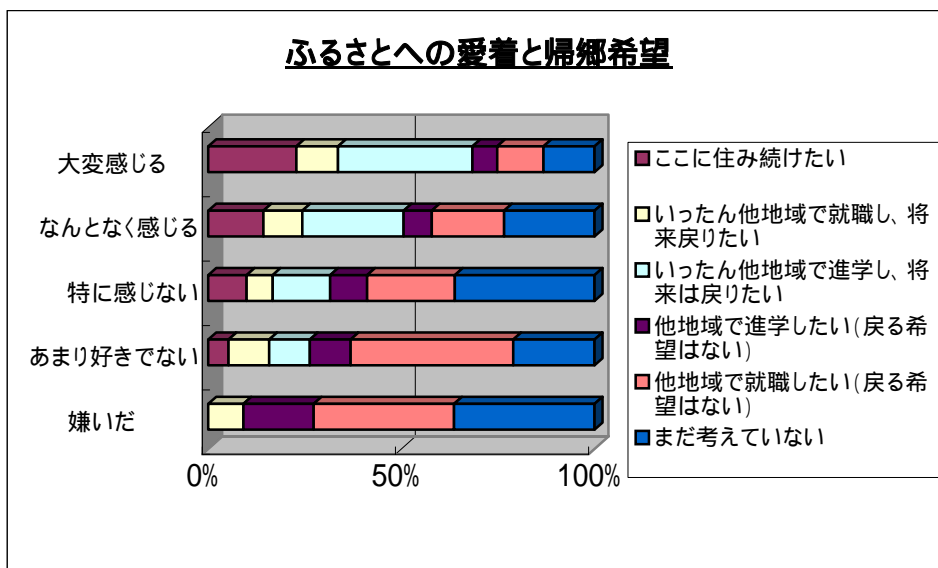
	ふるさとに大変愛着を感じる	なんとなく愛着を感じる	特に何も感じない	あまり好きではない	嫌いだ
地域行事によく参加する	47	36	17	3	1
時々参加する	93	127	67	4	2
あまり参加しない	45	130	68	3	2
まったく参加しない	67	136	131	9	16



考察 3 と同じ方法を用いて、地域行事への参加度とふるさとへの愛着度の関係を分析した。地域行事への参加度の高い生徒はふるさとも愛着を感じている、という傾向が指摘できる。

5 ふるさとへの愛着度と帰郷希望の関係

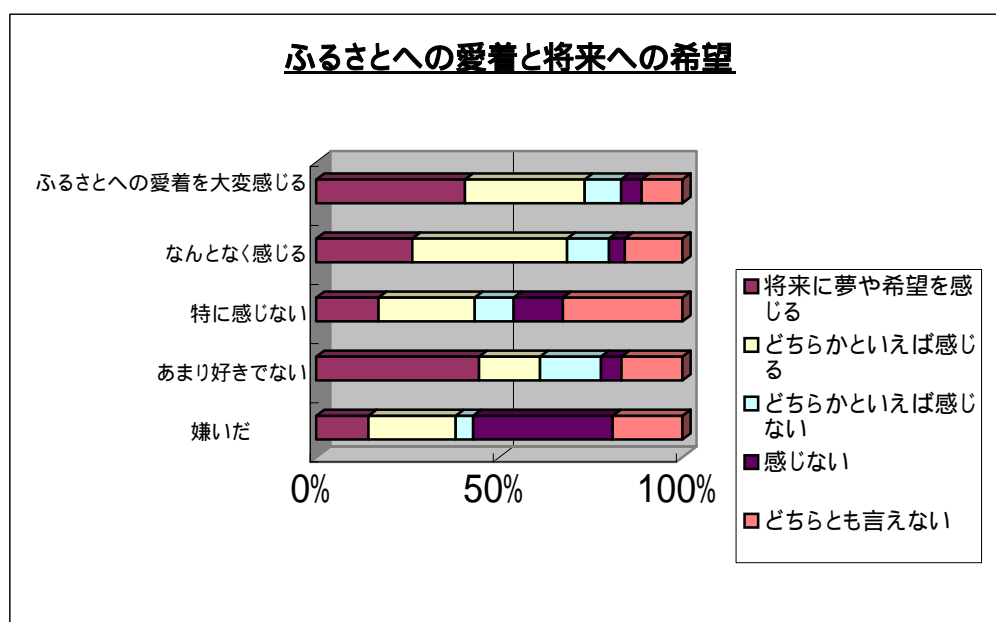
ふるさとへの愛着を	ここに住み続けたい	いったん他地域で就職し、将来戻りたい	いったん他地域で進学し、将来は戻りたい	他地域で進学したい(戻る希望はない)	他地域で就職したい(戻る希望はない)	まだ考えていない
大変感じる	57	27	87	16	30	33
なんとなく感じる	61	43	112	31	80	100
特に感じない	28	19	42	27	64	102
あまり好きでない	1	2	2	2	8	4
嫌いだ	0	2	0	4	8	8



考察 3と同じ方法で、今度は、ふるさとへの愛着度を母数とし、それぞれの答えのうち、将来の帰郷希望がどうなっているかの分析を試みた。全体的な傾向として、ふるさとへの愛着度と帰郷の希望は比例している、と言える。

6 ふるさとへの愛着度と将来への希望感

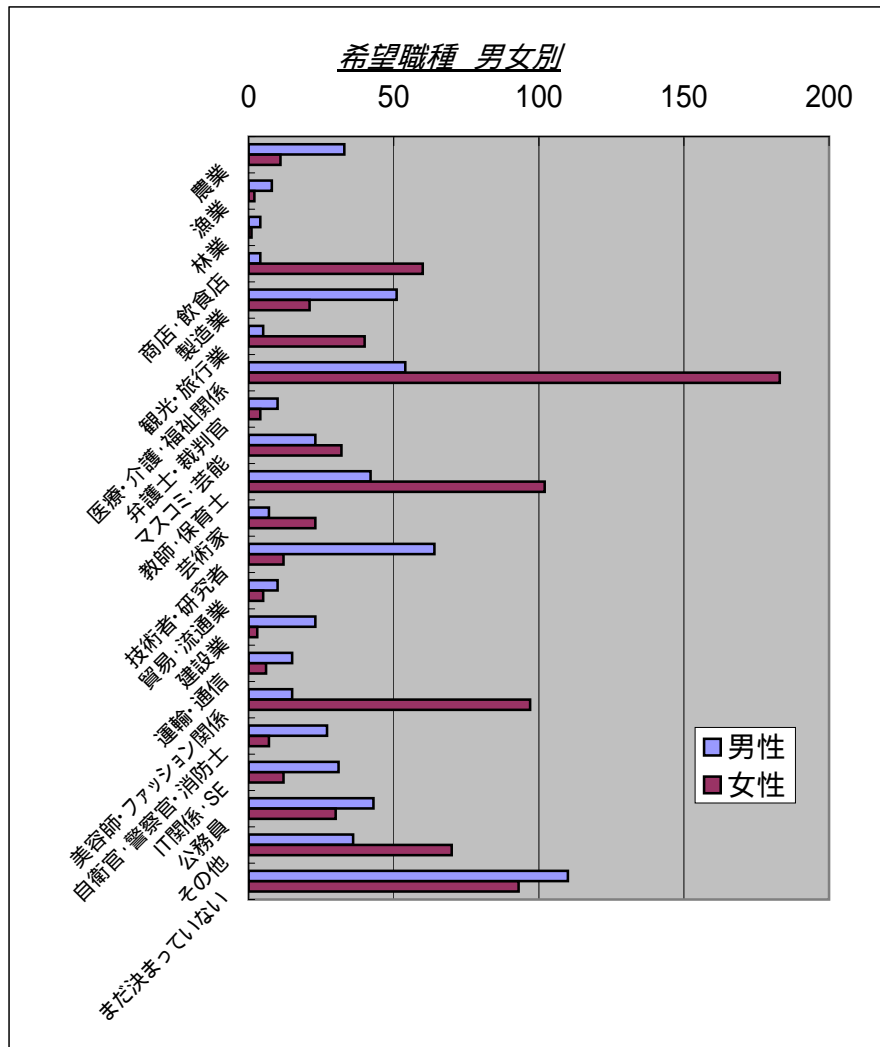
	将来に夢や希望を感じ	どちらかといえば感じ	どちらかといえば感じ	感じない	どちらとも言えない
ふるさとへの愛着を大変感じる	102	82	25	14	28
なんとなく感じる	110	177	48	18	66
特に感じない	48	74	30	38	92
あまり好きでない	8	3	3	1	3
嫌いだ	3	5	1	8	4



考察 同じく、ふるさとへの愛着度と将来への希望感の関係の分析を試みた。特筆すべきは、愛着を“特に感じない”と答えている生徒の

中で、将来への希望感に関して“どちらともいえない”と答えている割合の多さである。3 の傾向と考え合わせても、“特に感じない”“どちらともいえない”“何も感じない”等明確な判断のない答えを出している生徒はかなり共通しているものと考えられる。

7 希望職種 男女別



考察 希望職種にはっきりとした傾向が見られたこと、属性別回答数で、女性の方が多いことを考え合わせ、男女別の職種希望を分析した。その結果、人気職種の希望者の多くは女性であることが分かる。男性のみの結果を見たとき最も希望の多い職種は、技術者・研究者である。また、農業や製造業の希望もそう少なくはないことが分かる。